第3節　常盤構内の立会調査

大学祭展示物設置に伴う立会調査

調査地区　常盤構内

調査期間　平成3年11月12日

調査方法　工事施工時における立会調査

調査面積　約7㎡

調査結果　調査地域は常盤構内のほぼ中央部に位置する。大学祭に伴い竪穴住居を模擬的に製作するもので、現地表面から最大で約55cm掘削した。その結果、現地表面から45～47cm下位までは構内造成による埋め土で、その下には基盤である蛇紋岩の岩盤が観察された。遺構、遺物は認められなかった。なお、構内造成土の下部には、層厚約25cmにわたって地山と考えられる明黄褐色礫混じり粘土（10YR6／8）が基盤上に客土されていた。

今回の調査地点の東方や南方では、昭和61年度に身体障害者用スロープ取設に伴い立会調査を実施している[1]が、構内造成土の直下が地山となっており、調査所見に大きな差異はみられない。構内造成土の直下が地山であること、また、地山の削平土が客土されていることなどから、今回の調査地点周辺は過去に大規模な削平を受けていることが推測される。

常盤構内ではその他の山口大学構内と比較して過去の調査事例が少なく、また、点的調査が主体で調査地域も構内西半部が多い。したがって、必然的に埋蔵文化財の有無や分布状況を判断するための具体的な資料が欠如しているのが現状で、今後とも立会調査や試掘調査などの継続的な調査の必要がある。

（河村）

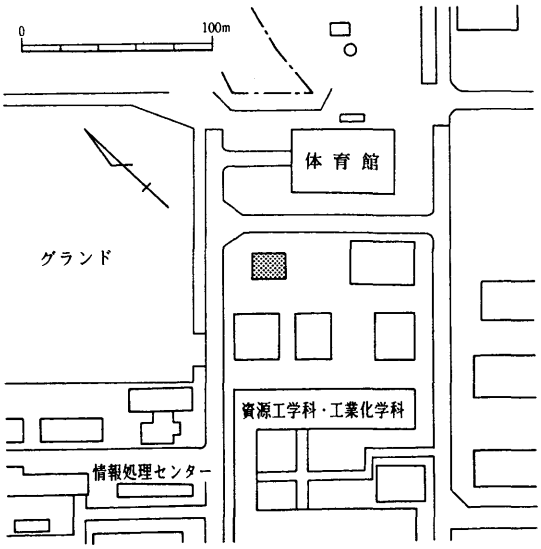

Fig. 22　調査区位置図

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「工学部身体障害者用スロープ取設に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』、1987年）。